

令和4年度 狭山市立堀兼小学校 自己評価書

1 本年度の重点目標

(1) 国語・算数を中心とした確かな学力の育成	(2) GIGAスクール構想実現に向けての学習用タブレットの活用
(3) 体育的活動の活性化と体力向上の推進	(4) 外国語教育の充実
(5) 積極的生徒指導の推進	(6) 人権教育の推進
(7) 特別支援教育の推進	(8) 安心・安全な学校づくり
(9) 家庭・地域との連携	(10) 教育公務員としての資質向上

2 本年度の経営方針

児童からの信頼・地域保護者からの信頼・教職員相互の信頼を基盤とした学校づくりを進める。

3 自己評価結果

【評価の目安】A:よくできている(90%) B:概ねできている(85%以上) C:あまりできていない(70%以上) D:できていない(70%未満)

領域	番号	評価の観点	達成状況	改善の方策
1 学校教育 教育目標	1	共通理解が図られ、実現の努力がなされたか。	A	学校経営方針は、学校経営説明会・学校便り・PTA運営委員会等を通じて保護者に浸透してきた。今後も取組を通じて保護者・地域へ発信していく。
	2	保護者への浸透が図られたか。	B	
	3	経営方針について共通理解が図られ実現の努力が図られたか。	B	
2 校務 分掌	4	分掌の内容や責任が明確であったか。	B	各分掌とも見直しをもって役割を果たしている。職員数が少ないため、個々の役割が増える場合があるが、組織でカバーし合う雰囲気さをさらに高めていく。
	5	分掌が活発に機能し各分掌の連携が図られたか。	B	
	6	各分掌の組織が合理的に編成されているか。	B	
3 教育 計画	7	学校教育目標や経営方針を具体化するために編制されたか。	A	コロナ禍で制限がある中、授業時間数の確保に向け、教育課程を工夫しながら実施できた。また、さやまっ子緊急メールやHPを活用し情報発信に努め、感染状況に応じながら、学校公開等を実施してきた。次年度は、更なる「開かれた学校づくり」を目指し、情報発信を行っていく。
	8	年間授業日数が適切に配当されていたか。	A	
	9	授業日数の確保の努力が十分なされたか。	A	
	10	開かれた学校づくりに努力がなされたか。	B	
	11	教員が教育計画実施の担い手であるという自覚をもてたか。	A	
4 学年 学級 経営	12	時間割により十分な成果を得ることができたか	B	「笑顔・本気・挑戦・感謝」を柱とした学校経営が、学年・学級経営へ十分に反映されていた。児童一人一人のよさと課題を的確に把握し、学年・ブロックが連携して実践できた。また、必要に応じて生徒指導委員会や教育相談、関係諸機関とも連携し合い、全職員で共通理解・共通行動を図れた。次年度は、更なる強化を図っていく。
	13	学校・学年・学級経営の方針に一貫性があったか。	A	
	14	意図的、計画的に学年、学級経営が進められたか。	A	
	15	児童生徒の自己決定の場が多く設定されたか。	B	
	16	教室環境の整備に努力がなされたか。	A	
	17	朝の会、給食、清掃、帰りの会などに工夫改善が加えられたか。	A	
5 学習 指導	18	朝の読書への取り組みがしっかりなされたか。	A	県学力調査の結果は、学年や教科により県平均を下回っていたが、授業研究会等を通して、学力向上が図られてきている。今後は、タブレットPC等ICTを活用した授業実践等を行いながら、主体的で対話的な深い学びへの授業改善を図っていく。
	19	児童生徒が進んで学ぶ授業の改善がなされたか。	A	
	20	基礎的・基本的内容を身につけさせるような工夫改善がなされたか。	A	
	21	児童生徒の長所を伸ばす評価の工夫がなされたか。	B	
	22	視聴覚・情報機器の積極的、効果的な活用がなされたか。	B	
6 選択 教科	23	教員数、施設、設備などの実情に応じたコースの設定がなされたか。	B	少人数指(算数)やSSVCとも連携しながら個に応じた指導を行っていく。
	24	児童生徒の個性を生かした学習内容、学習方法の工夫がなされたか。	B	
7 道徳 教育	25	全体計画を理解し、全教育活動をとおして道徳教育の実践がなされたか。	B	年間35時間(1年のみ34時間)の時数を確保するとともに、計画的に実施した。次年度も、全体・年間指導計画を踏まえた指導を行っていく。
	26	道徳の時間が生徒の実態把握に基づき、計画的に実践されたか。	B	
8 特別 活動	27	全体計画を理解し、児童生徒の自己決定の場が多く設定されたか。	B	学級活動で児童の自主性を育み、縦割り班活動やクラブ、委員会活動などの時数を確保し、児童主体の活動を可能な限り実践した。次年度も、児童の主体的な取組を促すために、計画的な特別活動の計画立案・実施を行っていく。
	28	全体計画が、生徒の実態把握に基づき、計画的に実施されたか。	B	
	29	児童生徒会活動などの特性が理解され、児童生徒の自己実現がなされたか。	B	
	30	奉仕活動の活発化が図られたか。	B	

領域	番号	評価の観点	達成状況	改善の方策
9 学校 行事	31	学校行事が計画的に実施されたか。	A	コロナ禍のため、計画的に実施するのが難し場面もあったが、臨機応変に対応できた。また、児童の教育活動に関する行事はできる限り、実施することができた。
	32	学校行事の特性を生かし、生徒の自己実現が図られたか。	B	
	33	職員の仕事分担が適切であり、お互いに協力がなされたか。	A	
10 生徒 指導	34	全体計画に基づき、計画的な指導がなされたか。	A	生徒指導体制が機能し、健全な学校生活を送るための積極的な指導が年間を通じて実践できた。生徒指導上の問題行動については生徒指導主任を中心にチームで早期対応、早期解決が図られた。継続事案についても、職員で共通理解を図りながら対応している。今後も継続して、自分からあいさつをすることを徹底していくとともに、保護者・地域への指導の啓発を図っていく。また、全職員で共通理解、共通行動ができるように、指導力の向上と連携強化を図る。
	35	職員に共通理解があったか。	A	
	36	カウンセリングマインドを心がけて指導がなされたか。	A	
	37	教育相談活動が計画的に実施されたか。	A	
	38	基本的生活習慣が定着するよう指導がなされたか。	A	
	39	児童生徒が意欲的に清掃活動を行うよう指導がなされたか。	B	
	40	いじめや不登校の指導が積極的になされたか。	A	
	41	不登校生徒が出ないよう努力がなされたか。	B	
11 進路 指導	42	家庭、地域、諸機関との連携が密に行われたか。	B	キャリア形成が意図的・計画的に行えるようにキャリアパスポートを作成、活用して継続して取り組んでいく。
	43	全体計画に基づき、計画的な指導が行われたか。	B	
	44	児童生徒が自己の生き方について考えることのできる授業や指導がなされたか。	B	
12 保健 ・ 安全 指導	45	家庭との連携が行われたか。	B	緊急メールの機能を活用した出欠席連絡により、児童の健康状態をこまめに把握し、病気や怪我については医療機関とも連携して迅速に対応できた。今後も、登下校時の交通安全指導を徹底していく。また、一斉保健指導を全学年で実施するとともに性に対する指導等で、保護者との共通理解を図るようにしていく。
	46	保健観察が丁寧に行われたか。	A	
	47	児童生徒の危険な行動【予測されるものを含めて】に対して適切な指導がなされたか。	B	
	48	健康や体力向上に進んで取り組む指導がなされたか。	A	
	49	治療が必要な生徒に適切に治療勧告がなされたか。	A	
	50	事故に対する対応が適切になされたか。	A	
13 職員 会議	51	性に関する指導が共通理解のもとに行われたか。	B	職員会議等の資料の電子化・効率化が図られ、計画的円滑に実施できた。自己評価シート作成や申告、及び提出・面談も適切に滞りなく実施できた。今後も、学年会や学級事務の時間を確保しつつ、職員会議等の運営を行う。
	52	給食指導が適切になされたか。	B	
	53	開始時刻が守られたか。	A	
	54	職員が問題意識を持って臨めたか。	B	
	55	議案の内容や提案の仕方が適切であったか。	A	
	56	建設的な意見が述べられ、よりよい会議の進行に協力的であったか。	B	
14 教職 員の 服務	57	会議の内容がよく理解され、決定されたことが責任持って実行できたか。	B	倫理確立委員会、研修等は各担当職員が中心となって、計画どおりに実施できた。県・市からの連絡事項や、新聞記事報道等の情報も事あるごとに職員へ伝達し、服務の厳正に努めた。また、在校時間の短縮を推進し、職員の健康維持を図ることができた。
	58	自己評価シートの内容が適切に進められたか。	B	
	59	教育公務員としての自覚を持ち公務員倫理のもと服務の厳正に努めたか。	A	
	60	ゆとりを持った出勤がなされたか。	A	
	61	服装、言葉遣い、挨拶等は適切であったか。	B	
	62	出張や研修の報告が速やかに行われたか。	A	
15 校内 研修	63	組織の一員としての自覚に基づき一人一人の責任が果たせたか。	A	本校の課題である児童の「書く力」の向上を図るため、研究授業を柱に校内研修を実施し、外部指導者を2回招聘して、教員の授業力の向上を図った。また、市教委・市教育研究会の委嘱を受け、計画的・組織的に研究を進め、実践した。次年度以降も全国学調や県学調の結果を分析したうえで、研究の方向性を定め、研究する体制を整えて行く。
	64	健康維持増進のための努力がなされたか。	B	
	65	研究主題が児童生徒・地域の実態や課題を踏まえた適切なものであったか。	A	
	66	研究組織や進め方は研究内容に応じて合理的・機能的であったか。	B	
	67	教職員が意欲的に取り組んでいたか。	B	
16 施設 設備	68	研究の結果、児童生徒の変容が見られ、子供のためになったか。	B	日常点検・定期点検を通して、施設設備の瑕疵のないように即時対応を心掛け、施設事故は0であった。刃物や薬品等の管理も定期的に点検・確認を行い、適切に管理できた。児童が使用した場所や用具の後片づけや用具の整理整頓等は継続して指導していく。
	69	研究内容が日々の指導の中に生かされ、教員にもしっかり身についたか。	B	
	70	研究の成果を次年度に生かす見通しができたか。	A	
	71	施設設備が丁寧に正しく利用できたか。	B	
	72	備品の所在数量使用方法などが明確に把握され、有効に利用されたか。	A	
17 学校 事務	73	使用後は施錠等が確実になされ、しっかり後始末ができたか。	B	表簿や会計管理は、校長・教頭・教務主任・事務主事を中心に厳正に点検を行い、会計事故は0であった。また、会計事故を未然に防ぐため集金日・支払日を学校で統一し、校内に現金を置かないように配慮した。
	74	掲示施設が有効に活用され、掲示教育が積極的になされたか。	B	
	75	環境整備に児童生徒も積極的に参加し、積極的な活動がなされたか。	B	
	76	出勤簿は毎朝、押印されたか。	B	
	77	旅行命令簿はその都度、適切に記入されたか。	A	
18 PTA 家庭 地域	78	出席簿は毎日記入され、月ごとの集計は滞りなく行われたか。	B	SSVC・図書ボランティア・農業ボランティア等との連携をとって、学校教育活動の充実が図られた。夏季休業中に実施予定であった、個人面談が感染症拡大状況により中止せざるを得なかったが、希望式での教育相談として代替を行った。
	79	文書は事前に校長に提出し、点検を受け、期限までに発送されたか。	A	
	80	現金の取り扱いは細心の注意が払われ、会計事務は適切に処理されたか。	A	
	81	家庭訪問・保護者会等は適切に計画され遂行されたか。	B	
19部活動	82	学年・学級便り等の発行は適切になされ、保護者への情報提供は適切であったか。	A	「総合的な学習の時間」は、児童の興味・関心や地域性を考慮した指導計画を立案していく。一人一端末が実現し、PC室の使用頻度が減ってきている。
	83	地域や家庭を積極的に理解するよう努力されたか。	B	
	84	積極的にPTAや地域の活動へ積極的に参加したか。	B	
	85	部活動の指導は計画的に適切に行われたか。		
20 総 合	86	内容は生徒の興味をそそるものであったか。	B	
	87	計画に沿って実施できたか。	B	
	88	図書室・コンピュータ室等の利用は計画的に適切に行われたか。	B	